

| | |
|-----|---|
| 会議名 | 第7回 まちづくりの勉強会 |
| 日時 | 平成31年2月27日 午後7時30分～午後9時27分 |
| 内容 | <p>[テーマ] 高山の未来のための都市づくり ～30年後(2050年)の高山、何を目指して生きるんや～</p> <p>[参加者] 市民 15名 事務局 4名 計19名 (10代：0名 20代：1名 30代：4名 40代：9名 50代：4名 60代：1名 70代：0名)</p> <p>[勉強会の流れ] ① はじめに(10分) 進行：事務局 ② グループ討議(60分) 前回のグループ討議の中で出されたキーワードのひとつである「ゆっくりとした時が流れている高山」ということに特化し、各グループで討議 ③ グループ別発表(20分) ④ 意見交換(25分) ⑤ おわりに(2分)</p> <p>[グループ別発表] 【グループ1】 ・「ゆっくり」＝ 時間がかかる、刺激が無い、競争が無い、もの足りない ＝ 高山は盆地に囲まれた大変不便なところ ← 価値観の転換をしよう ・とき 時間に縛られない、余裕がある、気づくことができる、時間がかげられる、贅沢 → 「本物ができる」 ・風景 古い伝統や建物が残っている、郊外に人が少なく夜が静か、夜空が綺麗 → 「風情がある」 ・人 人が穏やか、無駄話ができる、人と人があいさつをし合っている、飛騨弁が雰囲気を出す → 「認め合える信頼がある」</p> <p>【グループ2】 ・過去からゆっくりとしたもの、過去から速いもの、未来もゆっくりなまま残したいもの、未来は速くなってほしいものを提案 (↓右図参照) ・a：お酒を飲む時間、お風呂に入る時間、静かなまちの音 ・b：県外への公共交通の移動時間、物流、情報の発信 ・c：個人の起業(長く継続してほしい) ・d：店の閉店時間(暮らし方をゆっくりと)、災害時の避難、 「そしゃそぞ」という決断力</p> <p>【グループ3】 ・「人のために時間を割けるまち」というテーマに置き換え議論した。 ・場所 本町の店舗を一軒一軒ゆっくり回ってのんびりできるといい ・空間 人情、風情、自然の音に耳を傾けられる時間がある、静かな空間を楽しめるところがあるといい、おじいちゃんおばあちゃんとゆっくり語れる空間を残したい ・自然 他所から帰ってきたときに見える山並みがいい ・時 ゆっくりの中にも変化があるといいが、自分の芯を持っていたい ・お家 家があって、薪ストーブの火を見ながら、家族と過ごす ・商い 高山は女性の起業家が多い、陸の孤島のため競争相手が少なく、高山らしさが出せる ・子ども のびのびとゆっくり成長できる、子どもが安心して気軽に寄ることができる場所が</p> |

もっとあるといい

- ・**心** 人の話を聞ける、立ち止まって確認ができるまち、心に余裕が持てる、方言がやさしい
- ・**情報** 本当に必要な情報はちゃんと届いて、余分な情報は要らない → 心にゆとりができる
- ・コミュニケーションがとれる人づくりをしていきたい

【グループ4】

- ・岐阜や名古屋などの都会との比較をした。
- ・店の閉店時間が早い → ゆっくりできない? → 否、店の人はゆっくりできている
- ・スナックが8時からしか開かない!? → 家で軽く夕飯をとり、お風呂に入ってから行く
- ・時間にせわしくない
- ・イベントが終わったあとの打ち上げのほうが高い(対して、都会はそのまま解散。ドライである。)
- ・人間関係が濃い、お世話になったらお世話を返す
- ・都会は「帰ったら寝るだけ」、高山は仕事だけでなく自分の立ち位置がいろいろある(仕事、農業、祭、町内会、雪かき等)
- ・都会の人間関係はぶつ切り、高山は重複していてつながりが深い
- ・祭に関しては厳格
- ・遠いがゆえ、物理的に時間がかかる → 時間をかける
→ 1日でできることを欲張らない(欲張れない) → ひとつひとつを丁寧にやる
→ 帰って寝るだけというわけにはいかない

[全体ディスカッションでの主な意見]

- ・店の閉店時間が早い点について、客側と店側の視点によって良し悪しは異なるということに気づいた。物流も早くなってほしいけど、早くなることで、観光客が来やすくなるが帰りやすくなる。そのバランスをどうしたらいいか考えさせられた。
- ・高山の良さについては、世代間によって感じ方が違う。若い人にとってどうしていくのがいいのか、逆に年配の人にはどうなっていくべきなのか。
- ・人と人との温かいつながりを大事にしたい。安全さ、自然も残してほしい。
- ・若者は一旦は高山を離れるだろうが、また故郷高山に戻ってこようと思ったときに、戻って来られるようなまちにしたい。
- ・子どもたちに、高山の価値を伝えておくことが大事。

[アンケートより抜粋]

- ・「まちづくり」への絡め方をもう少し考えられたらと思います。
- ・地域として「個」を尊重してあげられることが、若者を呼ぶことにつながるかもしれないと思った。 等

[まとめ・次回について]

- ・「ゆっくりとしたときが流れる」での議論も踏まえつつ、若者が住みたくなるようなまち、子育てしやすくなるようなまちとは、また、若者はそれを受け入れられるのか、受け入れたいと思っているのか、受け入れられるとしたらどのような工夫をすれば良いか、を考える。
- ・第8回は、平成31年3月27日(水) 19:30~21:30 市役所にて。